

平成 29 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター・教授
氏名 Name	岸田泰浩
専門分野 Academic Field	言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	コーカサス地域の言語研究 明証性の通言語的研究、格助詞の類型論的・歴史的研究
<p>言語事象の普遍性を探求する類型論の立場から言語間に観察される類似点や相違点を整理しながら、対象言語の文法構造についての比較研究を多角的におこなっている。平成 29 年度は、「明証性」と「格」を中心のテーマとして研究を実施した。アナトリアやコーカサスで話される言語の多くは、現在完了をベースにした明証性を発展させており、アルメニア語やグルジア語もそれに含まれる。現在の東アルメニア語と西アルメニア語はその完了形の体系に異なる点があり、それらの明証性としての使用についてどのような類似点や相違点があるかを、チュルク語等からの言語接触による影響も視野に入れながら考察した。また、「格」については、コーカサス地域の言語におけるその歴史的・概念的発展に焦点をあて、平成 29 年度は、古典アルメニア語との比較を通して、東西の現代アルメニア語の名詞曲用に観られる相違、特にその膠着性の程度に着目した考察をおこなった。以上のアルメニア語に関する考察の一部は、論文「現代アルメニア語はどのような言語かーその地域的特徴ー」(<i>Diversity and Dynamics of Eurasian Languages: The 20th Commemorative Volume</i>, pp.227-280) として公表した。また、中国・中央民族大学において、類型論的視点から再考した日本語のガ格の歴史的発展について講演 (“A typological approach to the development of nominative marker in Japanese -Why not zero-ending and why occasionally employed for the object-“, 2017 年 10 月 26 日) をおこない、2017 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会においては、現代アルメニア語の動詞体系における諸問題について研究発表 (“現代アルメニア語の動詞体系の整理に向けて”, 2018 年 3 月 29 日) をおこなった。</p>	